

編集後記

■編集委員 (50 音順)

伊熊健一郎
北野正剛

岩崎昭憲
清水一雄

小澤壯治
徳村弘実

北島政樹
東原英二

食道手術の特集のなかでもみられたように、内視鏡手術における器具の工夫は、必要は発明の母に通じるものがあります。現在の内視鏡器具は機器メーカーにより供給されているものがほとんどですが、なかには臨床の現場で術者のアイデアを参考にして世に登場したものも数多くあります。自動縫合器など複雑な機構をもったものは別として、術者のちょっとした発想からわれわれ使用者にとって有用である器具が生まれています。とかく道具へのこだわりは男性にありがちな性格ですが、ノート PC をはじめ時計、カーナビ、DVD プレーヤーなどは常に生活スタイルにあわせ新しい機能を付加し進化しており、内視鏡手術でもより便利な機器が登場すればできれば使いたいと願うのは共通した思いではないでしょうか。よい道具を使うことが必ずしもよい内視鏡手術につながるわけではありませんが、自分たちにあったこだわりの器具を持つことは、満足 of いく手術の第一歩につながるのではないのでしょうか。いつも借り出した器具を使用するという姿勢では、内視鏡手術の達人にはなれないのかもしれません。

今や外科関連学会の展示場は、内視鏡外科に関連した機器の展示のブースが年々広くなっており、足を運ぶたびに新しいものが所狭しと並べられ、つつい電化製品のようにほしくなるのも事実です。どこまでこだわるかで必要な器具も決まってくるわけですが、それぞれ予算もあるわけで、家庭で妻に嘆願して購入するのとは異なり、病院予算との兼ね合いにならざるをえません。

最近では政府も構造改革により縮小財政を推進させ、無駄なものを省いていくことの重要性を謳っています。また郵政民営化の次は医療改革に移ってきており、一段と緊縮財政の環境のもとに内視鏡外科手術も置かれていくことと思われます。そのなかで何が無駄か、術者の便利さと経済性の両立を今後は自問自答しなければならないでしょう。そのうえで本当に必要な内視鏡の道具が生き残っていくのかもしれません。臨床の現場で術者のアイデアにより生まれたものは、えてして構造が単純で、しかも丈夫で再生できるものも多く、この点でも有用な内視鏡道具として期待できるのではないのでしょうか。私もアイデアだけで、今までに具体化した道具はありませんが、みなさんもよい内視鏡手術道具を発案してみたいかがでしょうか。

(岩崎昭憲)

日本内視鏡外科学会雑誌 (第 10 巻 第 6 号) 2005 年 12 月 15 日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1 部定価: 会員には毎号送付されます。その他については、1 部定価 2,835 円 (本体 2,700 円 + 税 5%) となります。

2005 年 年ぎめ予約購読料: 16,500 円 (税込) (配送料: 医学書院負担)

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 北島政樹)

〒162-0802 東京都新宿区改代町 26-1-B03 有限責任中間法人学会支援機構内

(☎ 03-5206-6007 Fax 03-5206-6008 担当: 佐々木) <http://www.jses.org>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 26-1-B03 Kaidaicho Shinjuku-ku,

Tokyo, 162-0802, Japan

©2005, Printed in Japan

発 売: 株医学書院 (代表: 金原 優) (本誌担当: 蔵田, 中田) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷株 ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 株文栄社 ☎ 03-3814-8541 (Fax 03-3816-0415)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意下さい。